

朝霞地区訪問看護ステーション第 5 回連携の会「SWAN カフェ」 グループワーク発表内容

【朝霞グループ A-1・A2】

災害まで手も目も回っていなかったのが、今回とても参考になった。避難経路は確認しているが、実際にどのようにするのか、自助を考えることが頭になく、伝えてはいるが、その人がどこまでできるのかは把握できていないのが現状。やらなければならないことがたくさんある状況に気付けただけでも良かった。

【和光グループ】

初めて実際に災害を体験経した話を聞いた。

実際にそういう現場に行ったことがないのでわからないことも多かったが、再確認できたことが多くあった。

緊急カードを「一般の方向け」・「在宅酸素と人工呼吸器を使っている方向け」・「透析の方向け」と作成しそれぞれ渡してはいるが、実際にはそれが使われていないことを再認識した。また、それを用いて訪問時に利用者らに確認していなかったことも再認識した。今後またスタッフに周知して確認していけたらいいと思う。

実際の災害を経験してないので、ステーション内で避難訓練等もしていけないといけない。どのように行っていけばよいか、話し合っていければいいと思う。

緊急時の連絡方法について、これまでは電話の連絡網を作っていたが、震災では電話が使えなかったということもあり、現在はライン等でステーションのグループを作り、安否確認が出来るように取り組んでいるステーションもある。

【志木グループ】

避難場所のリスト・備蓄品のリストを掲載した案内を作成し、家族へ渡す際に利用者の避難場所・備蓄品のある場所を伝えているが、今日の講義を聞き、実際に利用者がそこまで行けるのかということは考えていなかった、また家族指導が出来ていなかったということに気付いた。酸素量についても「できるだろうな」という思いがあったのが事実。年々認知機能が衰えたり、手技などを忘れることもあるし、力の入り具合等の確認もできていなかった。改めてスタッフに伝え家族指導に力を入れ、「自助」という部分を考えていきたい。

【新座グループ N-1.N2】

災害が起きた時にどういうことが起こりうるかを考えた。

停電：タブレットや電動自転車が使用できなくなるのでリスクが大きい。

断水：ステーション内のトイレが使えない、利用者の自宅のトイレが使えない。衛生面で憂慮すべきところ。

BCP の策定が差し迫っている中で、特に災害用のトイレ・蓄電池・食料等の備蓄や、初動対応のためのアクションカードも作成しないとけない。

「どこまでの地震があったら実際に訪問するのか」「震度 5 強・6 以上の地震の際には訪問は一旦ストップして、各々避難所に行ってもらおう」などを契約時に取り決めをしておく等、ステーション内で整えていかないとけない。まだまだ課題が多いことを確認した。